

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2870501224 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 光朔会 | | |
| 事業所名 | グループホーム オリμπシア兵庫 | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市兵庫区小松通5丁目1-14 | | |
| 自己評価作成日 | 2021年2月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年4月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/28/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 H.R.コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年3月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても、誇りを持ってこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念に掲げ、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、パーソンセンタードケアを提供している。家庭的な環境の中で、利用者のこれまでの人生をよく知り、グループの持つ力を活用することにより、残された能力や可能性を最大限に引き出すケアを行っている。また、デイサービス、ショートステイ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、住み慣れた地域で継続的にケアを受けることができる、小規模多機能ホームであることも大きな特徴である。地域に開かれたコミュニティカフェ「Cafe Olympia」を併設し内だけではなく外への出店も行っている。地域住民とともに Salon de l'Olympia(コンサート・落語会等)や「オリμπシア福祉塾講座」を開催するなど、地域との協働も多い。さらに、スウェーデンをはじめとする国内外からの見学・実習の受け入れや、大阪大学大学院などの研究機関と共同研究を実施するなど、認知症ケアの発展にも力を注いでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設内にデイサービス・ショートステイ・ヘルパーステーション・居宅介護支援事業所を併設し、地域交流・外出行事・家族参加でのイベント等に注力し、家族や地域と繋がりがながらこれまで通りの開かれた生活が継続できるように取り組んでいる。オリμπシアの理念・3つの約束・パーソンセンタードケアの理論の共有と実践に取り組み、「その人らしさ」を大切に支援に努めている。今年度は地域交流や外出が困難な状況にあるが、時期を勘案し感染予防対策を徹底して、可能な限りの外出や、ユニット間・デイサービスとの交流の機会を設けている。利用者と一緒に手作りの食事・おやつ作りを継続し、レクリエーション内容を充実する等、ホーム内で楽しみや役割を感じながら生活できるように職員がアイデアを出し合っており取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | オリンピア兵庫の理念、そして理念の実践のための3つの約束を作成している。この理念を毎日の朝礼で皆で読むことで確認し、内部研修等を通じ、全スタッフで共有と理解をさせて実践をしている。また、新しいスタッフには必ず理念を確認する事からスタートとしている。 | オリンピア兵庫の理念に地域密着型サービスの意義・役割等を明文化している。理念を具体化した「オリンピア兵庫3つの約束」と共に、ユニット内掲示・毎日の朝礼での確認等を通して、職員・利用者・家族と共有し浸透に努めている。新入職員の日帰り研修や施設内研修でも理念の理解に取り組んでいる。理念をもとに施設の年間ビジョン、各ユニットの年間・月間ビジョンを作成し、ユニットカンファレンス・リーダー会議で実践状況を振り返る機会を設け、また、職員も年間個人目標を作成して目標管理を行い、理念の実践に向け取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年は多くのイベントが中止となり、これまでのような交流の機会が取れなかったが、caféを続ける事での日常的な交流を始めクリスマスや、節分での地域の方々との交流を感染予防を工夫の上行った。 | 例年は、地域行事への参加、各種ボランティア・実習生の受け入れ、施設のイベント開催等で、地域との交流を積極的に行っている。今年度は感染予防を徹底しながら、買い物や散歩、カフェの開催、節分などの季節行事、保育園児や小学生の来訪等、可能な限り地域との交流機会を継続している。専門学校実習生の受け入れ・介護労働安全センターでの研修参加や講師受託など、地域貢献に努めている。また、時期を勘案しながら開催される地域ケアネット会議に参加し、地域共通の課題解決に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 例年は福祉塾講座等の勉強会を開催したり、地域の認知症相談に乗るなど行い、地域のコミュニティに参加しているが2020年はなかなか場を設けることが困難であり、そのほとんどが中止となった。 | | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2020年度に入ってからにはコロナウィルスの影響により開催ができなかった。世の中の様子をみつつ1度開催をしたが、その後開催は出来ていない。本来の報告資料を作成し、ご家族に送付し、定期的な報告を行っている。 | 例年、利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員・地域代表・知見者等をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。開催時には、レジュメ・「月間オリμπピア兵庫」講演会案内等の資料を配布し、各リーダーがユニットでの生活の様子や行事等について報告・意見交換等を行い、参加者からの意見・提案・情報等をサービスや運営に反映させている。議事録はホームページで公開している。今年度は、家族・あんしんすこやかセンター職員・知見者等の参加を得て10月に1回開催し、他の開催時は報告資料を郵送し書面会議としている。 | 郵送する報告資料に意見・情報等の返信欄を付け、返信内容を次回の報告資料で共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 管理者が認知症サポーターとして市の担当者との定期的なやりとりを行ったり、館長が市の研修で講師を務めたりと、市担当者とは日常的に情報交換を行い、協力関係を築いている。 | 運営推進会議を通して、あんしんすこやかセンターと連携がある。また、地域ケアネット会議を通じて、あんしんすこやかセンターと連携して地域の課題解決に取り組んでいる。管理者が介護労働安全センターでの研修参加や講師受託等で、また、認知症サポーターとして市の担当者と定期的に情報交換し連携を図っている。区のグループホーム連絡会に参加し、事業所間の課題解決に向けたネットワーク化に取り組んでいる。市の担当者とは日常的に情報交換を行い協力関係を築おり、今年度は特に新型コロナウイルス関連の最新情報の提供を受けたり、不明な点を電話で問い合わせる等、感染予防対策に活かしている。 | |

グループホーム オリンピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>1年の中で定期的に身体拘束に関する研修を実施し、ケアに取り組んでいる。事業所として身体のみならず気持ちに関しても言葉による拘束を行う事がないよう、研修を通して全職員への周知を行っている。</p> | <p>「身体拘束適正化指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。3ヶ月に1回、館長・管理者・リーダー・各ユニットから1名参加して「身体拘束防止委員会」を開催し、各ユニットの状況報告・身体拘束を行わずに事故を防止する方法等について検討している。また、ユニットカンファレンスでも、適正化に向けた検討や不適切ケアの未然防止に向けた検討等を行っている。委員会議事録・カンファレンス記録の内容は、回覧により全職員に周知している。入職時研修、管理者が参加した外部研修の伝達研修、また、館長が講師を務める施設内研修で、「身体拘束防止」研修を実施している。伝達研修・施設内研修の内容は、資料回覧で全職員に周知を図っている。例年は、法人研修も実施している。玄関ドアの施錠は行わず、ユニット間の行き来も自由にでき、閉塞感のない自由な暮らしを支援している。</p> | |
| 7 | (6) | <p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>高齢者虐待防止に関する研修を定期的実施し、虐待の定義や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また、日々のケアにおいても、不適切なケアがないかを注意し、必要の際はカンファレンスの機会を利用しスタッフ間で話し合う機会を設けている。</p> | <p>「高齢者虐待防止」についても、上記「身体拘束防止」と同様の方法で研修を行い、ユニットカンファレンスで検討し、それらの内容を全職員に周知を図っている。ストレスチェック・個別面談の実施、また、介護労働安全センターでの介護技術研修受講の奨励、ユニットカンファレンスでの個別ケアの検討等により、職員のストレスや不安がケアに影響しないよう取り組んでいる。</p> | <p>施設内研修・事業所内研修・外部研修(リモート含む)・伝達研修(資料回覧・ユニットカンファレンス内)等、様々な研修様式を工夫して研修が実施されています。研修実施一覧表の作成や、実施記録・資料・受講アンケート等の整理など、実施状況が明確になる整理の工夫が望まれます。</p> |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度の理解と活用について研修を行い、職員が知識を深める場を設けている。今年は管理者が外部の研修にリモートで参加した。また、必要と思われる利用者については、相談の上、関係機関への橋渡しができる体制を構築している。 | 入職時研修、管理者が参加した外部研修時の伝達研修により、「権利擁護に関する制度の理解と活用」についての研修を実施している。例年は、法人研修で行政書士による研修を実施している。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への身体状況の報告や金銭管理に関する書類送付、また、面会時の対応等、活用のための協力支援を行っている。今後、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり行政書士など関係機関と連携しながら支援する仕組みがある。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、解約、の際は十分に理解してもらえるように説明を行っている。改訂の際には変更内容をお一人おひとりに説明を実施し、同意の上署名、捺印を頂いている。疑問点に関しては速やかに解決できるよう、対応している。 | 入居希望があれば、状況に応じて法人内・施設内のサービスも紹介しながら、見学案内・面談等の対応を行い、パンフレットを用いて事前説明を行っている。契約時には、管理者が重要事項説明書・契約書・各種指針や同意書等の内容説明を行い書面で同意を得ている。特に料金関係や、重度化対応等については、具体的な説明に努めている。契約内容の改定時は、改定内容を説明した書面を作成し同意を得ている。契約終了時には、契約書の条項に沿って情報提供等を行い、円滑な移行に向け支援している。 | |

グループホーム オリンピア兵庫

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (9) | | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 例年、ご家族との交流の場となっていた機会が今年にはなくなってしまったが、その分ご利用者の様子を伝える機会が増え、個々のご家族からの意見を聞くことが出来た。電話や手紙、リモートといった形で対応している。また、いただいた要望はユニット内で周知し、ケアに活かしている。 | 例年は、日々の家族の面会も多く、家族懇談会・クリスマス会等のイベントや、食事外出等の外出行事の機会にも家族の参加を呼びかけ、意見・要望の把握に努めている。家族面会時には近況を報告し、また、写真を多数掲載した「月間オリンピア兵庫」を郵送して生活の様子等を伝え、家族が意見や要望をしやすいよう取り組んでいる。また、運営推進会議に複数名の利用者・家族の参加があり、意見・要望を外部者に表せる機会を設けている。今年度は、主としてリモート面会時・電話やメール連絡時等に、意見・要望の把握に努めている。把握した意見・要望等は、申し送りノートで情報共有を図っている。 | |
| 11 | (10) | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的にスタッフとの面談を行い、意見や要望等を確認の機会を設けている。また、スタッフのその時々様子を気を配り、個々のスタッフに対し、必要に応じ声掛けを行っている。スタッフの悩みや、疑問にいち早く気が付き、納得したケアを行えるよう配慮している。 | ユニットカンファレンスを、定期的には月1回と、必要に応じて随時開催している。定期開催の前には、事前配布のカンファレンスシートでユニットの運営状況・全利用者の状況・介護計画の実施状況等を確認している。議事録は、ユニット職員への回覧により周知を図り、館長・管理者も内容を確認している。月1回リーダー会議を開催し、両ユニットカンファレンスの内容を共有している。人事考課制度の個人面談時(年1回)の際、職員がユニットリーダー・管理者・館長と個別に意見交換する機会を設けている。管理者は、法人主任会議(月2回)に参加し、職員の意見等を代表者に伝える機会がある。職員から出された意見・提案を、利用者支援・業務改善等に、特に今年度は研修内容に反映させている。 | |

グループホーム オリンピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | <p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている</p> | <p>職員ひとりひとりが毎年目標を設定し、それに対する自己評価および上司による評価を実施することによって、向上心をもって働ける環境を整備している。また、定期的な面談の機会を作り、スタッフのその時々要望等を確認し、反映に努めている。</p> | | |
| 13 | | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>スタッフは介護未経験のスタッフも多く採用しているが、OJTを始め、スタッフのレベルにあった形での指導を行っている。今年度は外部の研修は参加が難しかったが、その分外部講師を招いての研修による初歩的な研修、リーダー以上を対象とした毎月の内部研修を実施し、スタッフのスキルアップに努めている。</p> | | |
| 14 | | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>リモートでの同区内での連絡会やケアネットへの参加など、法人内外の施設や同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。またSNSなどでの情報の発信も積極的に行っている。</p> | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p> | <p>初期のご本人の不安、要望に耳を傾け、ご本人が安心した形で生活をスタートできるよう環境を作り努めています。また、個別に日々のご本人の行動、言葉を詳細に記録し、ケアに反映している。</p> | | |

グループホーム オリμπシア兵庫

| 自己 者 第 | 三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------|---|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の段階でご家族との関わりを多く取り、事前に要望や、疑問をお聞きすることで、安心したご入居に繋がっています。今年度は事前の見学などが難しい事がありましたが、リモートの活用で館内を診ていただく等の工夫により、納得の入居に繋がりました。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談の機会をもうけご家族と、ご本人がその時置かれている状況の把握に努めている。直接的な要望だけでなく、会話の中から隠れた希望や望みを読み取るようにし、その時必要とされている支援の見極め、抽出を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | オリμπシアの理念のもと、職員は入居者様に対し、介護する側、される側ではなく、共に生活をする上で個々を尊重させて頂いています。敬語を使った接し方は基本として、生活の中にご利用者による選択を持って頂き生活をして頂いています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族に対しては、定期的にご連絡をさせて頂いたり、月刊誌等によつての報告をさせて頂くことで、接点を多く持ち関係作りに努めている。一つ一つのご本人のケアに対しても相談させて頂き、ともに結論付けていくことで、ご本人を共に支えていくための関係を築いている。 | | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご利用者お一人おひとりの生活歴を知り、築いてこられた関係や、つながりを大切に、入居後も可能な限り継続して頂けるよう支援を行っている。コロナ禍においても、リモートの利点を生かした遠方の方々との関わりを取って頂くことも出来た。 | 入居時は、家族が記入する「生活歴シート」等から馴染みの人や場所についての情報把握に努めている。入居後は、日々の会話等の中で把握に努め、個別の「情報ノート」への追記等で共有を図り利用者支援に活かしている。例年は、家族の他にも、友人・知人の来訪があり、馴染みの場所への外出も支援している。今年度は、リモート面会・ズーム面会等を工夫し、緊急事態宣言解除時など時期に応じて、病院・理美容院等の利用を行い、可能な範囲で馴染みの関係継続の支援に努めている。年賀状など手紙のやり取り支援や、施設内のデイサービス利用者との交流を通して、馴染みの関係継続を支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者個々の性格を理解し、全体の中でのその方の位置(立場)を見ることで、全体の関係性の把握に努めている。日常生活を共にし、自然な関わりを増やすことで、お一人おひとりの関係作りの支援をしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院のために退居した利用者とも必要に応じて連絡を取り、必要な支援を継続している。またご本人のご逝去後そのご家族ともイベント等を通して積極的な交流を継続し関係を守っている。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前の段階からご本人の希望や要望を確認し、反映している。生活の中で知りえた情報や新しく出てきた要望もその都度反映している。意思表示の困難な方に対しては過去の生活歴や、ご家族からの情報を得て本人本位に検討をしている。 | 入居時の、「生活歴シート」や、個別の「情報ノート」で、利用者の思いや暮らし方の意向の把握に努めている。入居後に日々の会話の中で把握した思いや意向は、iPadの「ケース記録」への記載や個別の「情報ノート」に追記して共有を図り、介護計画や利用者支援に活かしている。意思疎通が困難な利用者については、選択式の質問方法の工夫や、家族・かかりつけ医・以前の利用者担当職員等からの情報を活用して把握に努め、利用者が希望する暮らしを支援できるよう取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人や家族、ケアマネジャーの協力によって、ひとりひとりの個人史の把握に努めている。服装やこれまでの生活環境についても、本人や家族から詳細な情報を得るように努めている。また、得られた情報は日々のケアに生かすようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々、スタッフがご利用者との接点を直接とり状態や変化の把握に努めている。また、偏見や一方的な考えにならない様、定期的なカンファレンスにてスタッフ間での情報の確認を行っている。 | | |

グループホーム オリンピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人のその時々状態にあった暮らしを行って頂く為に、プラン作りを工夫している。本人、関係者からの意見は勿論、関わるスタッフ個々からも本人視点での意見を出し、プランに反映している。毎月のカンファレンスにて、モニタリング、アセスメントを実施している。 | 「生活歴シート」・「情報ノート」・入居前のサービス事業所からの情報等を基に、初回の介護計画を作成している。最新の介護計画書・アセスメントシート等の個人ファイルを各ユニットに設置し、職員に計画内容の周知を図っている。日々の実施状況は、iPadの「ケース記録」に入力している。利用者担当職員が、1カ月の実施状況・課題等を「カンファレンスシート」に記載し、ユニットカンファレンスで状況の共有や検討を行っている。カンファレンスでの検討を踏まえ、定期的には3ヶ月毎に見直しを行っている。見直しの際は、モニタリング・評価を行い、アセスメントシートで再アセスメントを行っている。かかりつけ医の意見は、「往診ノート」に記載し、電話や来訪時に把握した家族の意向等を介護計画に反映させている。 | 介護計画見直し時のカンファレンスの位置づけを明確にする、議事録の工夫が望まれます。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者様の“今”を大切に会話や、言葉を中心に記録を付けている。気づきや、発見、変更点をユニットカンファレンスに落とし込み、介護計画に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一定の決まったケアだけを提供するのではなく、利用者ひとりひとりの状況やニーズに応じた、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。また、オリンピア兵庫として、デイサービス・ショートステイ・ホームヘルプとを組み合わせ、小規模多機能ケアに取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 周辺地域とは継続的に関わりを持っている。2020年はコロナ禍で日常的に出かけたり、イベントへ参加をすることが出来なかったが、行えるイベントや方法を工夫し、地域との関わりを持って頂いている。 | | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (14) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>グループホームとして3名嘱託医がいる他、もともとのかかりつけ医がある方には継続した医師への診療を行い、ご本人、ご家族の納得した形で医師を選択頂いている。かかりつけ医の定期的な往診や定期受診により健康状態の把握をしている。また、医師との連携で普段よりご家族、ご本人の医療面での相談も受けて頂ける体制を整えている。</p> | <p>入居時に意向を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。事業所として、3名の往診医から希望するかかりつけ医で受診できる体制を整えている。往診医への事前の情報提供・医師の指示等は「往診ノート」で共有を図っている。入居前の馴染みのかかりつけ医への通院受診や歯科等の他科への通院にも職員が同行し、直接状況を伝え適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は「通院記録」に記録し、共有を図っている。事業所や施設の看護師が、日常の健康管理を行い、医師との連携、家族・職員への相談対応を行っている。</p> | |
| 31 | | <p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>ご利用者の小さな変化から看護師とは相談の上、情報の共有を徹底している。ご利用者の変化への早期対応、看取りや入院者の早期退院の受け入れに繋がっている。また、看護師によるケアの研修なども開催している。</p> | | |
| 32 | (15) | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>ご利用者の入院時には担当医師との連携のもと適切な病院へ繋げている。入院時には面会に頻繁に伺い、こまめな状態把握をし早期の退院に繋がる様にしている。退院に関しては地域医療連携室との連絡をこまめに取りすることで早期退院に繋げている。また、可能な限り病院と家族とのカンファレンスにも出させて頂く事で関係づくりに努めている。</p> | <p>入院時はサマリー等で、本人の医療支援に必要な情報を提供している。通常は、面会に行き状況の把握と利用者の不安の軽減に努め、病院関係者と情報交換を行っている。現在は、入院中の利用者との面会ができない状況にあり、家族と連携を取りながら、主として電話で地域医療連携室等と情報交換を行い、早期退院に向け支援している。入院中に把握した情報は、申し送りノートに記録し共有している。退院時には看護サマリーの提供を受け、退院後の計画見直しや利用者支援に活かしている。</p> | |

グループホーム オリンピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化に関しては指針を作成しており、入居時に説明、署名を頂くことを始めとしている。また、ご本人に変化が見られた際は勿論のこと、定期的に延命などの確認を行い、希望の変化を確認している。ご本人の変化に対しては医師、ご本人、ご家族、管理者、スタッフでのカンファレンスの場を設けるなどチームとして支援に取り組んでいる。 | 「重度化した場合における対応に係る指針」で事業所としての方針を明確にし、契約時に説明して同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族と共に説明を受け、事業所としてできる事・できない事を丁寧に説明し、家族の意向を確認している。主治医が終末期の判断した段階で、主治医を交えて看取り前のカンファレンスを開催し、家族等の意向に沿った支援に取り組んでいる。カンファレンス記録で情報共有し、看取りの介護計画を作成し、主治医・看護師等と連携を図りながら支援に取り組んでいる。事例があれば、ターミナルケア研修を行い、看取り後はカンファレンスで振り返りを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 経験の浅いスタッフであっても緊急事態に対応できるように、内部研修を定期的に行ったり、看護師による指導を行っている。また、利用者への個々の対応に関しては、普段よりユニット事で想定される事態をシミュレーションしている。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回設備会社や消防署、電気会社の協力のもと昼間想定・夜間想定消防避難訓練を実施している。毎回担当スタッフを変え、多くのスタッフが対応を身に付けられるようにし、全スタッフに周知を行っている。また、地域の消防署・交番等とも日常的に情報交換を行い、緊急時への備えを行っている。 | 毎年、年に2回、施設合同、昼夜想定消防避難訓練を実施している。今年度も、8月に昼間想定訓練、2月に夜間想定訓練を実施している。訓練には利用者も参加し、毎回担当スタッフを変え、利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう取り組んでいる。訓練前に「訓練シナリオ」を作成し、実施後には、防災委託業者等を交えて振り返りを行い「訓練評価記録」を作成している。「訓練評価記録」の回覧により、訓練内容を全職員に周知している。地域の消防署・警察署・民生委員等とも日常的に情報交換を行い、災害時における地域との連携・協力体制を築いている。水・食料や、カセットコンロ等の備品は施設で共同備蓄し、施設の管理栄養士が管理している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | パーソンセンタードケアの考えのもとご利用者主体の関わりを行っている。ご利用者の言葉や気持ちを尊重し、スタッフ自身の思いを押し付ける事のないようにしている。ご利用者お一人おひとりの個別理解をすることで、相手の尊厳を守った声掛けにも配慮している。 | 例年、法人内研修の中に、パーソンセンタードケア・利用者尊重を採り入れ、共有と実践に取り組んでいる。今年度は、施設内研修の中で管理者が講師となり、グループワークも用いてパーソンセンタードケアに関する研修を実施している。ユニット内掲示・毎日の唱和・カンファレンス等で「オリμπピアの理念」「オリμπピア兵庫の3つの約束」の共有と周知を図り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識向上に努めている。個人記録は、各ユニットの鍵付き書庫に保管し、写真使用についてホームページ・館内掲示・月間オリμπピア等に分類して、個人情報使用同意書で同意を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | スタッフがご利用者へ声かけを行う際は押しつけの言葉ではなく、選択肢のある問いかけを多く行うことで自己決定を促させて頂いている。また、ケアプラン更新の際ご利用者の思いをお尋ねし希望を叶える為の企画を立て実行を目指している。また、表現の難しいご利用者に関してもご家族の協力のもとご本人本位のケアを行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な生活の基盤の中に、「生活の主人公は利用者ご本人です」というオリμπピア兵庫の理念のもと、毎日のご利用者の体調や様子を見て、ご利用者の過ごしたいようすにごしていただいている。ご自由に過ごして頂く中で、様々なイベントや、行事などにもお誘いし皆様にとって刺激があり、望む生活を送って頂けるよう支援している。 | | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご入居前からの行きつけの美容院など馴染みの場所へ行って頂ける様にしている。身だしなみに関して、ご自身で出来なくなった方や普段されなくなった方に対しても、外出時等に服を一緒に選んだり、髪を整えたりといったこれまでの習慣を守って頂けるよう支援させていただいている。 | | |
| 40 | (19) | | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事を食べることは勿論、その過程を大切にしている。すべてのメニューをいちから一緒に調理し、配膳や盛り付け、片付けを楽しんで頂いている。また、メニューに関しては、献立にご利用者の希望や季節の食材を取り入れ、栄養士によるチェックを行っている。また、個々にあった形態で提供させて頂き、安全かつ楽しみなものになるようにしている。 | 献立は各ユニットの職員が、季節感・利用者の希望・行事食等を探り入れて作成し、毎食手づくりの食事を提供している。おやつ作り(概ね週1回)も行っている。施設の管理栄養士から栄養バランス等の指導・助言を受け、献立に反映させている。食事形態にも個別に対応している。職員が交代で検食し、評価を「給食日誌兼検食簿」に記録し、調理に活かしている。利用者の希望や得意を活かして、感染予防対策を徹底しながら、野菜の下ごしらえ・調理・後片付け等に参加できるよう支援している。個別の好みの箸や茶碗を使用し、職員も席を共にして食事を楽しみ、家庭的な雰囲気づくりに努めている。1階テラスでバーベキューやお茶を楽しんだり、少人数で外出して軽食する機会も設けている。 | |
| 41 | | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分は季節や個々に必要な水分量を考え、こまめに水分を摂取させていただき記録に残している。毎日のチェックにより食事量が少ない方には必要に応じ医師と相談し、カロリー摂取できる栄養補助食品を取り入れる等対応している。 | | |
| 42 | | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後お一人お一人の口腔状態に合わせた口腔ケアを行っていただける様にしている。必要に応じ一緒にチェックをつけることで、ご本人とともに確認を行っている。自身のできる箇所は行って頂いている。定期的に歯科受診をしており、歯科医のアドバイスを参考にしている。 | | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご利用者個々の排泄法を把握しその方々にあった支援を行っている。自立に向けた排泄を促し、排せつ支援変更の際は本人、スタッフ同士、ご家族との確認のもと慎重に進めるようにしている。また、一度オムツなどに変わった方々に対しても定着することがないよう、自立に向け目標立て、向上に努めている。 | 排泄の自立度に個人差が大きい状況であり、iPadの「排泄チェック表」で排泄状況や排泄パターンを把握し、利用者個々に応じた支援に取り組んでいる。自立した利用者は自立が継続できるように支援し、立位が可能な利用者は必要に応じた声かけ・誘導を行いトイレでの排泄を支援している。ユニットカンファレンスで利用者個々の状況を共有し、現状に即した介助方法や排泄用品の使用を検討している。退院後の利用者には、状況に応じて目標期間を設定し、おむつが定着化しないよう取り組んでいる。誘導時の声かけの工夫や見守り位置に配慮する等、羞恥心の軽減やプライバシー確保に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | お腹に良い食べ物や飲み物を取り入れた食の工夫、またその量にも気を配り働きかけている、必要な方にはプランに落とし込み運動の機会も作らせて頂いている。医師、看護師の判断で下剤や、浣腸もおこないご本人の苦痛緩和を行っている。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は個々の希望に合わせてつつも、少ない方で週に2～3回を目途に入浴して頂いています。好きな方は毎日入浴される方もおり、ご利用者のご希望の時間に入っていただけ様、朝、昼、夕関係なくいつでも入れる様、対応している。また、入浴形態も、個々に対応しており車いすの方であっても機械浴を使用頂き安心、安全に入浴を楽しんで頂いている。 | 週2～3回の入浴を基本とし、利用者個々の意向や生活習慣に沿った回数で入浴を支援し、「入浴チェック一覧」やiPadの「入浴チェック表」で入浴状況を確認している。時間帯も、朝・昼・夕方、利用者の希望の時間帯で入浴支援を行っている。身体状況によっては、デイサービスの機械浴の使用も可能である。同性介助の希望に対応し、入浴を嫌がる利用者には、声掛けやタイミングを工夫する等、個別に配慮して対応している。好みのシャンプーや入浴剤の使用、ゆず湯の機会を設ける等、入浴が楽しめるよう支援している。 | |

グループホーム オリンピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯や睡眠時間の決まりをこちらで設定する事無く、おひとりおひとりの生活にあった睡眠ペースで休んで頂いております。居室の照明や環境などにも注意し、安心して休んで頂ける様配慮している。寝付けない方に対しても、スタッフが寄り添い眠たくなるまでお話を伺うなどの対応をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員ひとりひとりが確実に薬の目的や用法を理解し、適切な服薬の援助ができるように、看護師と情報の共有を行っている。薬の変更や、新たな薬が処方される際は明確な期間を設定の上、効果や副作用等のデータを取り、担当医師に報告相談をし、服薬調整を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者お一人おひとりに自由に生活して頂く中でも、ご利用者の行動が少なく退屈な日常にならない様、様々なお誘いを行っている。全体での催し物を始め、個々の生活歴からお得意なことや趣味を生かした活動をお勧めしている。また、無理のない範囲で家事などでも役割を持って頂き、刺激のある生活に繋げている。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 2020年度はコロナウイルスによって外出の自粛を強いられた。これまでのようには行えなかったが、感染予防の上での近隣の散歩や、少人数でのドライブなど、出来ることを考え、ご利用者との相談のもと実行している。 | 今年度は、例年のような積極的な外出支援が困難な状況にあるが、時期を勘案し、家族にも了解を得ながら、初詣、近隣の公園への散歩や買い物、ドライブなど、可能な範囲での外出支援に努めている。また、感染予防に配慮しながら、通院・理髪店等への送迎を支援している。外出が困難な時期は、1階のテラスやベランダを活用し、戸外で外気浴や気分転換が図れるように支援している。 | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の希望に合わせ、ご家族との相談のもと所持の方法を決め管理をしている。現在は多くの方が自身での管理をされない形を希望されているものの、買い物時に自身で支払って頂いたり、適度なお金を持って頂くなど安心感をもって買い物を楽しんで頂ける様支援させて頂いている。 | | |
| 51 | | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | これまでご利用者の築いてこられた関係継続の為にも、関係の方々とのやり取りは積極的に行って頂いている。携帯電話を持参し好きな時に連絡を取られたり、年賀状や手紙、2か月に一度は月刊誌を送付し、写真にてご本人の様子をお伝えしている。 | | |
| 52 | (23) | | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご利用者が決まった場所で過ごすのではなく、気分によって居場所を変えて頂けるよう一つのリビングに数か所の椅子やテーブルを配置している。また季節によってリビングの飾り付けを変えたり、ご利用者の手作りの物を置かせて頂いている。音楽や、金魚なども育てており日常的に様々な刺激を持って頂けるように設定している。また設計段階から、建物に木材を多く取り入れる等のご利用者の暮らしやすさを考えた設計をしている。 | 共用空間は木の温もりが感じられ、ユニット間が廊下でつながり、利用者が自由に交流でき、開放感のある環境である。テーブル席・ソファスペース・一人用ソファ等を設置し、また、畳のスペースもあり、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう配慮している。アンティーク家具・ひな壇・水槽・行事の写真・利用者の手作りの作品等を飾り、ベランダのプランターで野菜や花を栽培する等、季節感や家庭的な雰囲気が感じられる。トイレ・浴室などをわかりやすく表示し、動線を考慮して家具を配置し、色使いに配慮する等、利用者が安全に自立した生活が継続できるように努めている。 | |
| 53 | | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | そのときどきの人間関係や気分も考慮して、数か所の居場所を提供している。また、食卓とくつろぐ場所を分けることで安心して過ごすことのできる居場所づくりに取り組んでいる。 | | |

グループホーム オリμπピア兵庫

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | オリμπピア兵庫ではご本人がこれまで使い慣れた家具、馴染みの品思い出の写真を持って来ていただき、ご本人のセンスにあった居室づくりをご本人と一緒にしている。家族からも情報を頂き、これまでの生活環境に近い形で、ご本人の落ちつける空間を作っていただけよう支援している。 | 居室はゆったりとした広さがあり、ベッド・クローゼット・洗面台等が備え付けられている。家族の協力を得て、ダンス・テーブルセット・冷蔵庫・利用者の趣味の作品・歌劇のカレンダー・携帯電話等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、その人らしさを感じられる。入居時に、自宅や施設など入居前の居室環境の把握に努め、それまでの生活環境とのギャップが可能な限り小さくなるように家具の配置等を工夫し、安全に落ち着いた生活ができるよう支援している。利用者担当の職員を設置し、家族と連携をとりながら、衣替えや環境整備を支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご本人の「自立」のサポートの考えを基本に、環境作りを考えている。フロア内に出来る限りつかまれる場所を多くし、カラーも多く取り込んでいる。皆様の状態の変化に応じた個々の居室の模様替え、安全なスペースの確保、更に自身での行動を促すような配置などを考えている。 | | |